



いつもお世話になります。子どもの頃は大人の勉強嫌いで、大人になると妙に勉強をしたくなったりします。親に言われていやいや通っていた習い事も懐かしく思うのか、かつて挫折した習い事をやり直す人も多いのだとか。大人になって初めてわかる学びの楽しさ。この先の人生にフィードバックしていきたいものですね。

痛快! えだまめ君

画:ほりひろみ



知っとこ! 「税務のママ知識」

【国税はどちらでしょう? 「法人税」「事業税」】

新聞やテレビなどで「国税」「法人税」「間接税」など、「税」のつく言葉をよく見聞きします。これらの言葉は何となく理解していても、中にはちょっと自信のないものもあるのではないのでしょうか。



そこで今回は、税の種類や分類について簡潔にお話します。税は「どこに納めるか」「何に対して課税するか」「納め方」の3通りに分類できます。「どこに納めるか」では、国に納める「国税」と都道府県や市町村などの地方公共団体に納める「地方税」に分けられます。

地方税はさらに都道府県税と市町村税に分かれます。国税には法人税・所得税・消費税などがあり、地方税の道府県税には道府県民税・事業税・地方消費税などが、市町村税には市町村民税・固定資産税などがあります。「何に対して課税するか」では、所得税や法人税のように個人や会社の所得に対して課税する「所得課税」。消費税や酒税など物品の消費やサービスの提供などに対して課税する「消費課税」。相続税や固定資産税など資産などに対して課税する「資産課税等」に分かれます。また、「直接税」や「間接税」は「納め方」になります。直接税は、法人税や所得税のように「税を納める人」と「負担する人」が同じ税金のことをいい、一方、消費税や酒税のように「納める人(事業者)」と「負担する人(消費者)」が異なる税金を「間接税」といいます。

今月のあなたの運勢

鑑定: 妙慎

A型	B型	O型	AB型
周囲の人と協力することで物事が上手く運ぶ月。第三者の意見に耳を傾けると吉! 独断専行は、禍の元と心得て。	何となく体がスッキリしない人は、軽い運動で解消できそうです。毎日のウォーキングや体操が良運を得る鍵!	金銭トラブルに巻き込まれそうな暗示。たとえ親しい間柄でも金銭の貸し借りはなるべく慎むことが得策です。	ヤル気を持って働くことが運勢UPにつながる月。雑用も手抜きせずこなせば、周囲からの信頼度も増します!

社員のひとこと日記



長かった冬がようやく終わり、待ちに待った春の出番です！
冬はどうしてもこもり気味になってしまう私にとって、春は本当に待ち遠しいのです(^o^)*
そんな私の趣味はお寺・神社巡りです。一人でふら〜っと京都によく出掛けます。
昨年11月にも、嵐山へ紅葉と嵐山周辺エリアのお寺巡りに行ってきました。今年の紅葉は全然ダメでしたね……
(+_+)残念 来年は綺麗な紅葉が見られるといいなあと思います。
お寺や神社に行ったら必ず頂いているものがあります！ その名も【御朱印(ごしゅいん)】。ご存知ですか？
御朱印というのは各お寺や神社で頂ける墨書・押印をした印のことで、お寺によって
様々ですが大体300円が一般的です。右の写真は清水寺の御朱印です。とても力強い字です
が、女性が書かれたものです。この様々な御朱印を書いてもらう
のが御朱印帳と呼ばれるものです。もちろん私もMy御朱印帳を
持っています(^o^)! じゃばら折りになっているので、広げた
時の眺めは何とも言えません(ー)ニヤッ オススメのお寺があ
りましたら、黒川まで教えてくださいませm(_ _)m



365日が楽しくてたまらない! 「商売のヒント」

今月の商売のヒント:【「たまたま」を「必然」にするのは今日からの一歩】

昨年の7月にタイを襲った大洪水は多くの企業に甚大な被害をもたらしました。今でも先の目途がつかない会社があります。そんな中、洪水の被害を最小限に抑えて、すぐに操業を再開できた会社があるという話を聞きました。その会社は精密機械の工場だったそうですが、当時、社長は次のような行動をとったそうです。社長がタイの工場からの電話で洪水の第一報を受けたのは、洪水の勢いが未知数で、これからどうなるか何もわからないごく初期段階のときだったそうです。けれど社長は直感します。工場が浸水するのは時間の問題だろう。そうなったら機械は全滅してしばらく工場が停まってしまう。社長は自分の直感を信じて電話口で次の2つの指示を出しました。すぐに仮の場所を押さえて工場を移転させること。機械を発注すること。そしてその足で、自分はタイに飛んだそうです。タイに着くとすぐに保険会社と連絡を取り、工場の様子を見に来てもらう段取りをしました。工場の周辺は水浸しで船がなければ近づけません。社長は自腹で船をチャーターして保険会社の担当者に乗せ、工場に向かいました。身銭を切ってまで船を出したのは「最悪の状態」を保険会社に見てもらうため。水が引いてからでは十分な査定をしてもらえない可能性があります。船代を惜しんではいけないという判断でした。周囲の工場が操業停止で対策に迫られる頃、すでに新しい機械を発注しておいた社長の工場は、別の場所ですぐに仕事を再開できたそうです。社長は「今回の被害を最小限に抑えることが出来たのは、私の直感が運良く当たったこともあります。小回りがきく会社の規模であったこと。そして、そのときにたまたま資金に多少の余裕があったからですよ」と謙遜しながら語ったそうです。



会社経営においても、より深刻な不況という洪水が押し寄せてくる前に、行動を起こさなくてはなりません。「たまたま」ではなく「確実に」回避するためにも、小回りがきかないのであればなおさら早いうちに、そして少しでも資金に余力があるときに。そんなことを改めて考えさせられた出来事ではなかったでしょうか。